

育成を目指す資質・能力

計算の順序に関するきまりを理解し、四則に関して成り立つ性質やきまりについて理解を深められるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数量の関係を表す式について考える力を養う。

ICT活用のポイント

課題意識をもたせ、本時のめあての明確化と児童の考えを可視化したノートを共有し、意見交流が活発にできる授業

前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかみ、解決への見通しをもつ。

ドットの数の求め方を工夫して考え、1つの式に表して説明しよう。

個別に追究する。

共有したものを基に、ドットの数の求め方を比較・検討する。

学習をまとめる。

学習を振り返る。

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

- 大型ディスプレイに前時のまとめを提示し、「計算のじゅんじょ」について穴埋め形式で確認し、問題解決に取り組むための条件を大型ディスプレイに提示する。

【事例におけるICT活用の場面①】

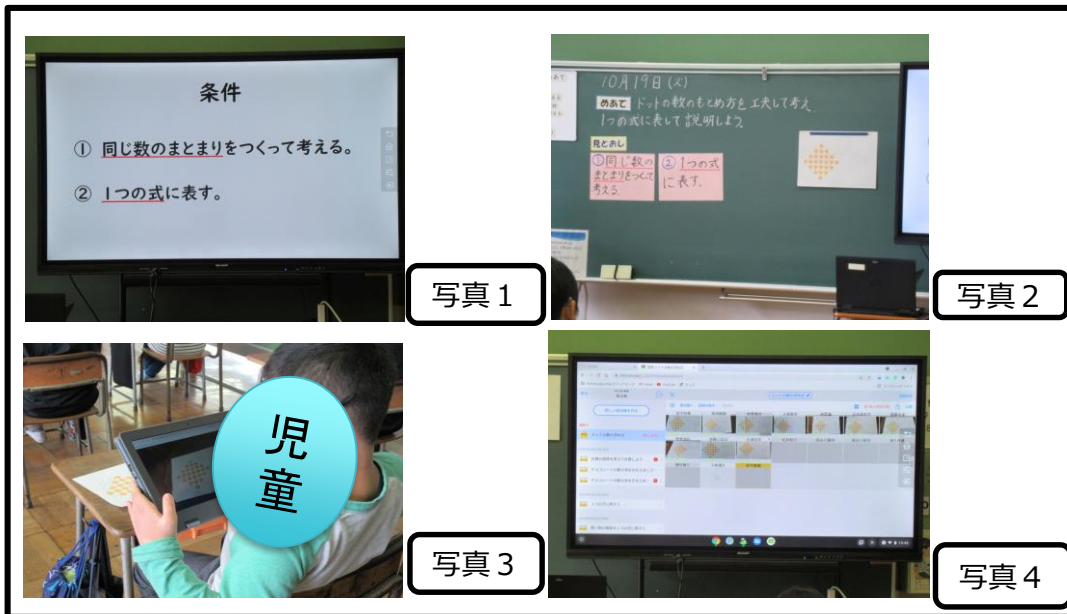
- ドットの数が求められた児童は、ワークシートの写真を学習支援ソフトに提出させる。
- 回答共有を行い、他の児童の回答を確認しながら自分の考えと比較する。

【事例におけるICT活用の場面②】

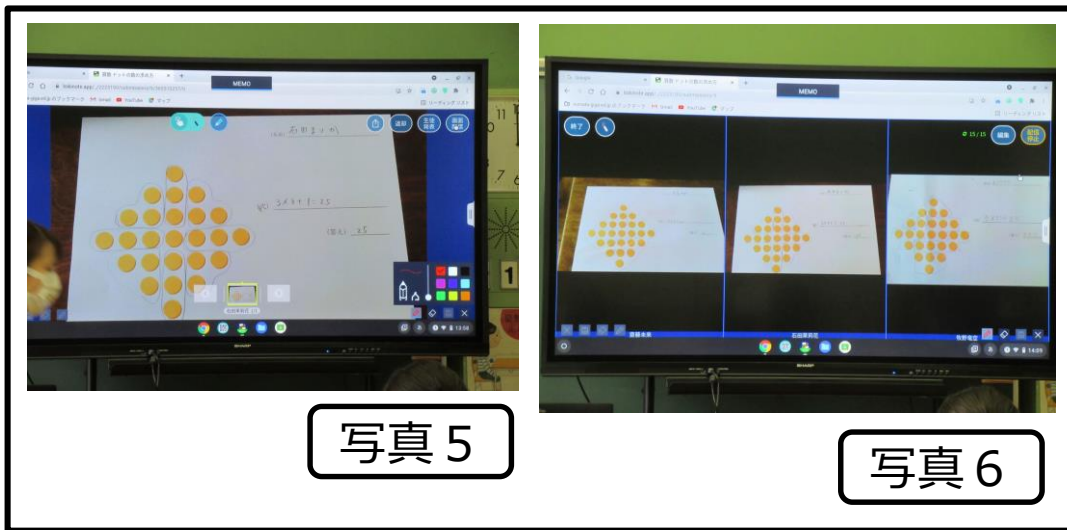
- 学級全体で発表する児童の考えや友達の考えを大型ディスプレイに提示し、図と式を使って説明させる。
- 学習支援ソフトで、自分の考えを図や式を用いて説明したり、友達の考えた図や式を見て求め方を考え、説明させたりする。

【算数・小4・「計算のやくそくを調べよう」②】

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【活用したソフトや機能】

・学習支援ソフト ・カメラ（写真撮影）

- 写真1・2は、問題解決に取り組むための条件を大型ディスプレイに提示し、黒板を使って解決への見通しをもたせている様子である。
- 自力解決できた児童には、ワークシートを撮影させ、その写真を学習支援ソフトに提出させた。写真3は自分の考えを写真に撮っているところである。
- 共有をかける時間を決めておき、提出した児童や分らないところがある児童が、他の児童の考え方を確認しながら自分の考えとは違う考え方に気付いたり、自力解決のヒントにしたりしていた。写真4は、学習支援ソフト内に全児童の考え方が集約されている様子である。
- 児童は、提出された考えを容易に見ることができるため全児童の多様な考えを短時間に把握することができていた。

- 学級全体で発表する児童の考えや友達の考えを大型ディスプレイに提示し、図と式を使って説明させたことで、児童の考え方が見やすく提示することができた。
- 学習支援ソフトの比較機能を使うことで、児童が自分の考えと友達の考えを比較する場面で、教師が比較したい考え方を選択し、簡単に大型ディスプレイに写すことができるので友達の考えのよさ、自分の考えとの共通点や相違点等に気付くことにつながっていた。